

ぐるり39

～自治調査会だより～

2018

9

No. 060

[発行日]
2018.9.1



【写真提供・撮影場所】利島村

- ▶ 調査研究結果発表シンポジウムを開催しました！ 2
- ▶ 平成29年度 調査研究報告書の紹介 3
- ▶ オール東京62市区町村共同事業
みどり東京・温暖化防止プロジェクト市町村助成事業紹介 4
 - あきる野市 地球温暖化対策啓発事業
 - 西東京市 屋敷林で野鳥の巣箱を作ろう
 - 小笠原村 自然環境に配慮した遊歩道補修整備事業
- ▶ 多摩交流センターだより
 - ・多摩発・遠隔生涯学習講座9・10月開催予定の講座案内 5
 - ・東京雑学大学 10月講義案内 5
 - ・TAMA 市民塾・日曜講座のお知らせ 6
- ▶ 広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介
ひのはらの魅力発見! 弘沢周辺クイズチャレンジ!! 6
- ▶ ちょっと一息「とっておきの島しよの土産」 7
- ▶ 編集後記 7
- ▶ とっておきフォトスポット～利島村～ 8

Contents

9月の内容

公益財団法人

東京市町村自治調査会

地域戦略としての多文化共生に関する 調査研究結果発表シンポジウムを開催しました！

【平成30年7月23日 府中市市民活動センタープラッツ バルトホール】

当調査会では毎年度、市町村の自治に関する調査研究を行っています。今回のシンポジウムは、昨年度の調査研究の結果を踏まえ、「人口減少・少子高齢化社会を見据えた多摩・島しょ地域自治体における地域戦略としての多文化共生 ～経済分野と防災分野の取組から～」と題して開催しました。

(1) 基調講演

はじめに、(一財)ダイバーシティ研究所の代表理事である田村太郎氏による基調講演が行われました。講演では、外国人を取り巻く現状や、基礎自治体が地域戦略として多文化共生に取り組む必要性などについて述べられ、当シンポジウム内容に係る基本的な考え方を示していただきました。



▲基調講演の様子

(2) 調査研究結果発表

次に、当調査会が平成29年に実施した調査研究結果について、当調査会の白坂研究員が発表を行いました。ここでは、多摩・島しょ地域自治体・住民・事業者アンケートの結果に触れながら、多摩・島しょ地域自治体に取り組むべき方策について提言を行いました。



▲調査研究結果発表の様子

(3) パネルディスカッション

続いて、多文化共生の取組を具体的に展開するためのポイントを共有することを目的に、実際に活動を行っている4名の方にご登壇いただきました。基調講演を行った田村氏にコーディネーター役を担っていただき、経済分野と防災分野における取組内容等をご紹介いただくパネルディスカッションを行いました。

【経済分野】

- ①まず、福岡市国際政策課長の高木泉美氏から、福岡市における就職支援等を通じた留学生の地域への定着促進に関する取組についてご紹介いただきました。
- ②次に、(株)グローバルラストネットワークス代表取締役の後藤裕幸氏から、外国人に対する居住支援の現状や空き店舗対策と外国人の取組についてご紹介いただきました。



▲①高木氏



▲②後藤氏

【防災分野】

- ③3つめに、草津市国際交流協会の中西まり子氏から、滋賀県草津市における外国人留学生等による機能別消防団の取組についてご紹介いただきました。
- ④最後に、(宗)日本・ディヤナトのアタライ由希氏から、外国人の防災意識とイスラム教施設での外国人防災の取組についてご紹介いただきました。



▲③中西氏



▲④アタライ氏

ここまでの講演を踏まえ、より具体的なポイントを探るべく、意見交換を行いました。経済分野に関しては、外国人材を地域で受入れ、活躍できる地域をつくるために、大学や中小企業と自治体が連携して留学生の就職を支援する手法や、外国人材が活躍できる社内制度の事例等が紹介されました。

防災分野に関しては、災害時だけでなく平常時から自治体が外国人向けの情報発信を行う必要性や、日頃から外国人住民が地域の一員として暮らすことの重要性等が示されました。



▲パネルディスカッション
全体の様子

平成29年度 調査研究報告書の紹介

本紙5月号 (No.56) で概要を紹介した平成29年度の調査研究報告書のうち、5件の調査研究報告書について、隔月で詳細を紹介していきます。今号では、「多文化共生に向けた地域における国際交流に関する調査研究」を紹介します。本報告書は、当調査会ホームページ (<http://www.tama-100.or.jp/>) からダウンロードできます。

多文化共生に向けた地域における国際交流に関する調査研究

1 背景・目的

我が国では、中長期的に滞在する外国人住民や訪日外国人旅行者が増加しており、今後も増加が見込まれています。これに伴い、地域住民とのトラブルの増加等、様々な影響が生じています。一方、日本人人口が減少し、少子高齢化が一層進行する中、外国人住民を地域活動や地域経済の担い手として捉えることが期待されています。

そのため、本調査研究では、外国人住民に対するコミュニケーション支援や国際理解・異文化交流にとどまらず、外国人住民の生活・地域での活躍を支えるための多分野における横断的な取組と、それを着実に推進するための基盤づくりとして必要な取組を検討し、提示しました。



2 多摩・島しょ地域の現状

— 自治体の実態 —

- ◆ 多文化共生指針があるのはわずか1割
- ◆ 現状の取組は、言語支援や意識啓発事業が中心
- ◆ 予算や人員確保、ノウハウ不足が課題

— 事業所の実態 —

- ◆ 外国人の雇用未経験が大半、今後の雇用にも前向きではない
- ◆ どう対応してよいかわからない、意思疎通に対する不安が大きい
- ◆ 地域の外国人（住民・来訪者）増加に対して積極的でない

— 外国人住民の実態 —

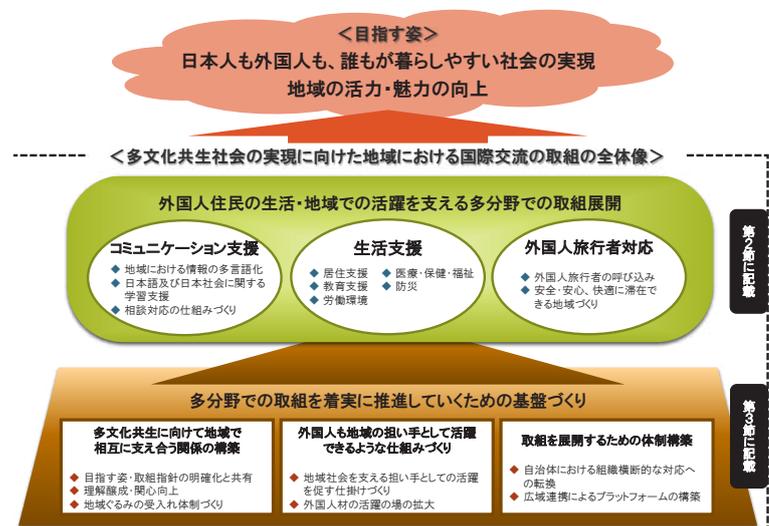
- ◆ 生活情報の提供、困った時の相談先の確保、差別なく地域で助け合える環境づくり等へのニーズが高い
- ◆ 地域活動に参加しているのは約半数、不参加者の約4割は、情報やきつかけ不足が理由

※多摩島しょ地域39自治体、多摩地域在住・在勤の自営業者・経営者、多摩・島しょ地域外国人住民へのアンケートから把握

3 多摩・島しょ地域における多文化共生施策のあり方

多文化共生の取組は、外国人住民のコミュニケーション・生活支援、国際理解ということにとどまらず、日本人も外国人も、誰もが暮らしやすい社会の実現や地域の活力・魅力の向上を目指す「地域づくり」という方向性をもって、分野横断的に展開していくべきと考えられます。

外国人住民のニーズや今後の地域社会において想定される課題等を踏まえた上で、民間団体や地域コミュニティ等、地域全体を巻き込んだ、地域で相互に支え合う関係の構築、外国人も地域の担い手として活躍するための戦略的な仕組みづくり、庁内での効率的・効果的な取組展開のための体制構築等により、取組の推進基盤を整備することが不可欠となります。





オール東京62市区町村共同事業

みどり東京・温暖化防止プロジェクト

市町村助成事業紹介

本プロジェクトでは、自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及・啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。本助成を活用して多摩・島しょ地域の自治体で実施された事業を紹介します。



1 あきる野市

地球温暖化対策啓発事業

あきる野市では、「あきる野市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、市民や事業所の方々との協働によって市域全体での地球温暖化対策を進めています。

近年、家庭からの温室効果ガス排出量が増加している傾向にあり、重点的に対策していく必要があります。そこで、今年度から市民を対象に家庭エコ診断制度を利用し、フィードバックを提出していただくことで、家庭部門における地球温暖化対策の更なる普及啓発を進めていきたいと考えています。

【問合せ先】あきる野市 環境政策課 TEL 042-595-1110



あきる野市
Tama

2 西東京市

屋敷林で野鳥の巣箱を作ろう

エコプラザ西東京では、例年小学生を対象にした環境講座「夏休み自由研究」を行っています。今年度は市内に残る屋敷林が市の公園として整備されたことに伴い、環境団体の協働で、「野鳥の巣箱を作ろう!」を行います。

講座は、屋敷林の豊かな生態系に気付くことを目標にしたもので、夏は親子で屋敷林の見学と巣箱作りを行います。出来上がった巣箱は子どもたちが自宅で保管し、12月に屋敷林の木に取り付けます。屋敷林とは防風や防寒のために農家の周囲に作られた林で、現在では市民にとって緑のオアシスともいえる存在になっています。

【問合せ先】西東京市 環境保全課 TEL 042-438-4042



西東京市
Tama

3 小笠原村

自然環境に配慮した遊歩道補修整備事業

小笠原は約190年前に人が定住して以降、開拓、繁栄、戦争による強制疎開を経て、平成30年6月26日、日本復帰50周年を迎えました。

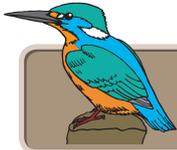
また、固有の生物が織り成す独特の生態系が、小さな海洋島における生物進化を示すと評価され、平成23年6月、世界自然遺産に登録されました。

小笠原村では、このような歴史と自然を活かしたエコツアーが盛んです。保全と利用の両面に配慮し、踏圧や降雨等の影響で土壌浸食が起きている遊歩道を、専門家や村民の協力を得ながら、自然の石や木材を使用した「近自然工法」により補修しています。

【問合せ先】小笠原村 環境課 TEL 04998-2-3111



Islands
小笠原村



多摩交流センターだより

インターネット
放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催
後援：武蔵野市教育委員会



9・10月開催予定の講座案内

175回

題名 老健施設とは

日時 平成30年9月13日(木) 14:30から約1時間
講師 緒方 博丸 氏(医学博士、独協医科大学名誉教授、元老健施設長)
内容 介護老人保健施設(老健)への入所の仕方、要支援、要介護の意味、一人1ヵ月いくらかかるのか、何をやってもらえるのか、病気になったらどうするのか、特別養護老人ホームとは何か、通所とはなにか、グループホームとはなにか、老健での日課について、3ヵ月毎に変わるのか、いつ老人ホームに入所したら良いのか等について話します。

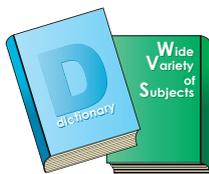


176回

題名 府中市最西部のまちづくりと市民活動 **日時** 平成30年10月11日(木) 14:30から約1時間
講師 小西 信生 氏(NPO法人府中かんきょう市民の会理事長、府中市環境審議会委員)

- 受講料 無料(ただし資料代100円)
 - メイン会場 多摩交流センター 第2会議室(申込みは必要ありません。直接会場にお越しください。)
 - サテライト会場 武蔵野市西久保コミュニティセンター
 - ライブ中継・VOD視聴について
- 多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座の視聴(ライブ中継)や過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

問合せ先 TEL 070-2648-3520(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人 東京雑学大学

平成30年10月講義案内

(受講料は会員無料・会員外は10月11日を除き、1回500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第1151回	10月4日(木) 14:00から	マンションの寿命と修繕計画 ～狙われる修繕積立金(仮題)	横超 和夫 氏 (NPO法人匠リニューアル技術支援協会常務理事、 建設コンサルタント)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)
第1152回 ※	10月11日(木) 14:30から	府中市最西部のまちづくりと 市民活動	小西 信生 氏 (NPO法人府中かんきょう市民の会理事長、 府中市環境審議会委員)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市西久保コミュニティセンター (JR三鷹駅北口 徒歩7分)
第1153回	10月18日(木) 14:00から	相馬黒光の肖像～新宿中村屋の 創業者にして近代文化サロンのパトロン	濱口 晴彦 氏 (早稲田大学名誉教授、 大磯コミュニティカレッジ学長)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)
第1154回	10月25日(木) 14:00から	和錠(江戸時代以前の錠前) の世界と文化史	鶴岡 道夫 氏 (和錠収集研究家)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)

☆申込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

※第1152回は、第176回多摩発・遠隔生涯学習講座と共同で実施します。メイン会場は多摩交流センターです。

問合せ先 TEL 042-465-3741(浅田) TEL 0422-52-0908(菅原)

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第115回

旧暦を知られば事件・伝統行事が見えてくる

【講師】 やました としお 山下 敏夫 氏

昭和23年愛知県生まれ70歳。商社マン時代繊維業界に長く関わり、四季の到来時期が大事で、中国をはじめ近隣諸国との取引でも旧暦の必要性を強く感じた。現在は、「旧暦の会」の会員・「南太平洋協会」の会員で旧暦の知識を習得し、自らも勉強会を開催し普及に努めている。

【内容】 旧暦は明治5年以前まで使われていた暦で、正しくは太陰太陽暦です。月の満ち欠けを基準にした太陰暦を基にしています。しかし太陽暦とは1年で11日程度くるいが生じ、この季節のずれを調整するため二十四節気を取り入れたものです。

慶長19年（1614年）10月1日に起きた大坂の陣は旧暦冬の季節で大坂冬の陣と言われ、翌年の旧暦夏にあたる4月6日に起きた陣は、大坂夏の陣と呼ばれます。

このような事件、伝統行事（七五三他）を旧暦と照らすと一層理解が深まります。



日時 平成30年10月21日（日）14：00～16：00

場所 多摩交流センター会議室 京王線府中駅北口
府中駅北第2庁舎6F（府中市寿町1-5-1）

申込方法 当日会場にお越しください。先着50名までとさせていただきます。

受講料 無料

問合せ先 多摩交流センター内 TAMA市民塾
TEL 042-335-0111

広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

ひのはらの魅力発見！ 払沢周辺クイズチャレンジ!!

実施日 平成30年10月～平成31年1月
（クイズチャレンジは12月20日（木）まで）

場所 西多摩郡檜原村 払沢の滝周辺

内容 地域の情報をより多くの人に知ってもらうために、平成30年10月1日（月）～平成30年12月20日（木）の期間でクイズチャレンジを開催します。

クイズは、「知ってほしいなあクイズ」（10問）と「知ってたらすごいクイズ」（8問）に分かれており、「知ってたらすごいクイズ」は期間中に払沢の滝入り口バス停や周辺店舗に掲示されるので、探してみてください。

後日、正解数に応じて払沢の滝周辺で使える割引券をお送りします。なお、解答発表は平成31年1月以降に行います。

主催 ひのはら魅力発見隊

問合せ NPO法人フジの森内 ひのはら魅力発見隊事務局
担当 佐藤
TEL 042-598-6928





ちょっと一息

とっておきの島しょの土産



東京の島しょ地域のお土産の第3弾は、東京の南約140キロに位置する利島村の椿を紹介するね。利島村は、島の面積の約8割が椿の木で覆われていて、島の斜面の至るところに椿の段々畑が広がっているんだ。椿は、冬に満開になって、夏には多くの実をつけて、秋になると熟すんだよ。この時、一粒一粒人の手で拾い集められて、丁寧に精製されて、良質な椿油が造られるんだ。

椿油の生産は約250年ほど前の江戸時代から行われていたんだ。利島では、水が少なく、稲作ができなかったため、幕府に上納されていたんだって。現在では、全国の椿油の生産量の約6割を占めて、日本一なんだ。

食用つばき油

揚げ物には、椿油3に対し、紅花油または大豆油7の割合でブレンドすると風味が増すんだ。ドレッシングには、椿油3に対し、果実酢1の割合にハーブやスパイスなどのお好みの材料を加えると、味・香り・色などのパリエーションが楽しめるよ。



島椿せっけん

椿油を贅沢に使用したせっけんだよ。椿油に含まれるオレイン酸がお肌に潤いを与えるんだ。泡立ちもとてもいいんだ。



TOSHIMA Excellent hair & skin care

スキンケア用で色も臭いもほとんどない、贅沢で高純度な椿油だよ。保湿力が高く、メイク直し知らずって、評判なんだ。

ネイルオイルやマッサージオイルとしても使えるんだ。



今回紹介したお土産は、6月号で紹介した、竹芝客船ターミナル内のアンテナショップ「東京愛らんど」(最寄駅はJR浜松町駅ほか)で販売しているから、ぜひ見てみてね。

東京愛らんどホームページ(<https://www.tokyoislands-net.jp/>)でも、通信販売しているよ。

[情報提供] 公益財団法人 東京都島しょ振興公社 TEL 03-5472-6546

「多摩交流センターだより」の問合せ先

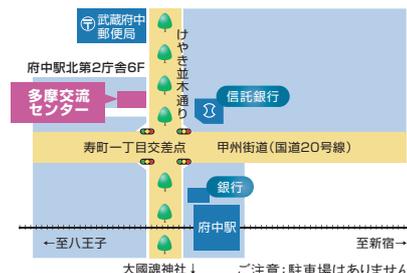
(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ 多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- 今年の天候は異常続きです。関東では初めて6月に梅雨明けの発表となりました。梅雨明けの7月初旬には、台風7号の通過後に西日本各地で未曾有の豪雨となり、200名を超える死者行方不明者を出す大災害となりました。この豪雨災害に対しては、東京の市町村も被災した自治体に職員を派遣し、支援を実施しています。さらに、7月下旬には観測史上初の東から西へ逆走する台風12号も発生しました。被害を受け、復興に取り組んでおられる被災者の皆様に、この場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。また、暑さも尋常ではなく、青梅市で40℃を超え、過去最高となった日もありました。猛暑が続いていますので、熱中症にならないよう体調管理には十分気をつけましょう。
- さて、本紙、2ページでご紹介しているとおり、先日、府中市プラッツバルトホールで、調査研究結果発表シンポジウムが開催されました。「地域戦略としての多文化共生～経済分野と防災分野の取組から～」と題する今回のシンポジウムには、多くの市民や自治体職員が参加され、熱心に基調講演やパネルディスカッションに耳を傾けていました。
- 6月中旬に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」では、外国人労働者の受入れ拡大が打ち出

され、秋の臨時国会で入国管理法改正案が提出されると報じられています。

人手不足が目立つ「農業」、「介護」、「建設」、「宿泊」、「造船」の5つの分野で規制が緩和され、技能実習終了者の期間延長や、日本語能力試験の合格者などの要件を満たした外国人に5年間の就労を認める内容となっています。

- 元々、多摩地域は大学が数多く立地していることから、外国人留学生が多い地域ですが、このような背景もあり、今後、更に外国人住民が増えることが想定されます。

これまで、自治体が行う外国人に対する施策は、インバウンド観光を狙いとした地域PRや在住外国人向けの日本語学習支援などが中心でした。しかし、これからは、あらゆる分野で日本人住民とほぼ同じ外国人のニーズへの対応が必要となってくると考えられます。これは大きな変化です。

- シンポジウムで講演した有識者やパネリストからは、外国人住民に地域経済の発展や地域の活力を担ってもらうための積極的支援などの取組が紹介され、多文化共生社会の実現をめざす上での様々なヒントが示されました。
- 天候や気候だけでなく、社会情勢にも大きな変化が見込まれます。

今回のシンポジウムを機会に、外国人も含め、誰もが活躍するまちづくりへの取組が進めば幸いです。(M.N)

とっておきフォトスポット

第9回 利島村

きれいな景色やおもしろいものを見つけたら、写真を撮りたくなるよね。

今回はわたげのボクが「南ヶ山園地」と「利島村勤労福祉会館のボウリング場」を紹介するよ。



南ヶ山園地

@WATAGE



南ヶ山園地は、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島を一望できる利島絶景スポットなんだ。島南部の緑地公園で、のんびりと散歩を楽しむことができる遊歩道も整備されているよ。登山道沿いにあるので、宮塚山へ登る道すがら立ち寄るもよし、下山時にちょっと休憩がてら立ち寄るもよしだね。新東京百景にも選ばれているよ。

撮影のPOINT!

- ・晴れて空気の澄んだ日の撮影がおすすめだよ。
- ・公園は集落と反対の南側にあるから、夜は星がとてきれいに見えるんだ。



利島村勤労福祉会館のボウリング場

@WATAGE



利島村勤労福祉会館には、2レーンの日本一小さなボウリング場があるんだ。1ゲーム300円でシューズ代は無料だよ。観光シーズンの7~8月には、帰省客や観光客などで賑わいを見せるけど、普段は島民も含めてあまり利用者はいないんだ。ただ、年3回開催されるボウリング大会の時には70名ほどの島民が参加し、1日中熱い戦いが繰り広げられるんだ。

撮影のPOINT!

- ・ボウリング場は照明が少し暗いので、手ブレに注意してね。
- ・月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)と年末年始は休館日だから、カレンダーを見てから来てね。



[現地案内]

◎利島へのアクセス

- 《航路》竹芝桟橋から高速ジェット船で2時間25分
竹芝桟橋から大型客船で7時間35分
- 《空路》調布飛行場から大島空港まで25分
大島空港からヘリコプターで10分

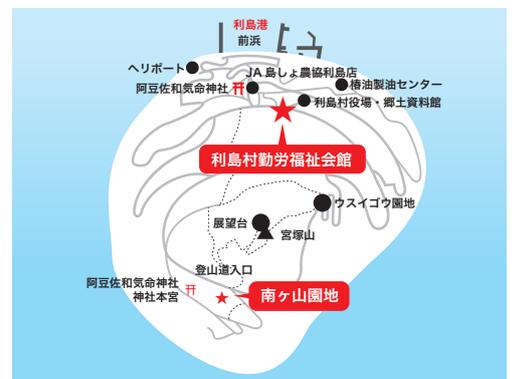
◎南ヶ山園地へのアクセス

利島港から徒歩1時間20分

◎利島村勤労福祉会館へのアクセス

利島港から徒歩30分

[情報・写真提供] 利島村役場 TEL 04992-9-0011



写真を撮るときは、周囲の状況をよく確認し、柵を越えたり立ち入り禁止区域に入るなど、マナー違反にならないようにね!

【発行日】平成30年9月1日

【発行】公益財団法人 東京市町村自治調査会

【責任者】岸上 隆

〒183-0052東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館4F TEL 042-382-0068

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (本紙のバックナンバーをご覧ください。)



再生紙を利用しています。